

損益状況<連結>

(単位:億円)

	27年3月期		26年3月期
		前期比	
経常収益	1,939	+ 29	1,909
連結粗利益	1,548	+ 38	1,510
資金利益	1,213	△ 0	1,213
役務取引等利益	251	+ 23	227
特定取引利益	3	△ 1	5
その他業務利益	80	+ 17	63
営業経費	1,060	+ 8	1,052
不良債権処理額	54	+ 68	△ 14
株式等損益	34	+ 28	5
経常利益	481	△ 13	494
当期純利益	282	+ 9	273
自己資本比率	11.13%	△ 1.18%	12.31%

27年3月期の連結業績につきましては、経常収益は前期比29億円増加の1,939億円となりました。

連結粗利益は、投資信託・保険販売手数料の増加を主因に前期比38億円増加の1,548億円となりました。

経常利益は、株式等損益が増加しましたが、不良債権処理額が増加したため、前期比13億円減少の481億円となりました。

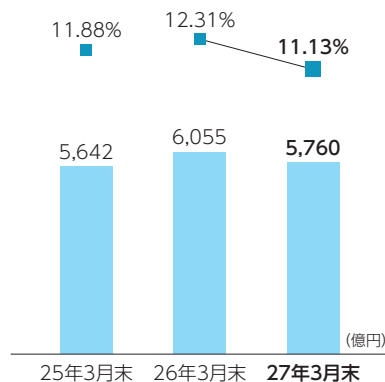
当期純利益は、前期比9億円増加の282億円となりました。

連結自己資本比率は、11.13%となりました。

普通株式の配当につきましては、昨年より1株当たり25銭増配の4円25銭、優先株式は所定の配当としました。

自己資本比率<連結>

■ 自己資本
■ 自己資本比率



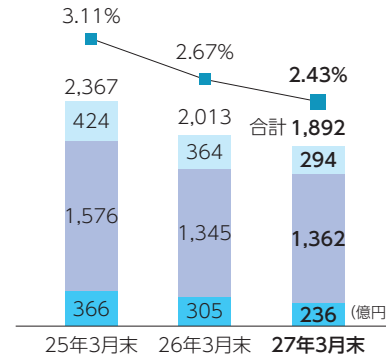
自己資本比率
11.13%

利益の積み上げを図った一方、劣後ローン等の返済により、前期末比1.18ポイント低下しました。

※25年3月末はパーゼルⅡベース、26年3月末以降はパーゼルⅢベースで算出しています。

金融再生法開示債権<2行合算>

■ 要管理債権
■ 危険債権
■ 破産更生債権及びこれらに準ずる債権
■ 開示債権比率



金融再生法開示債権
1,892億円

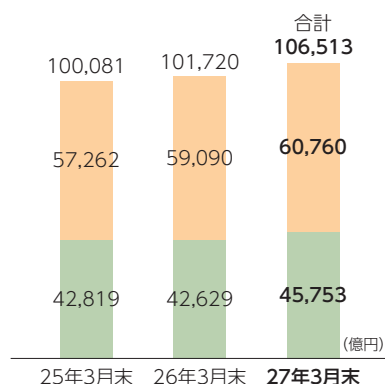
前期末比121億円減少しました。

開示債権比率
2.43%

前期末比0.24ポイント低下しました。

預金(含む譲渡性預金)<2行合算>

■ 北陸銀行
■ 北海道銀行

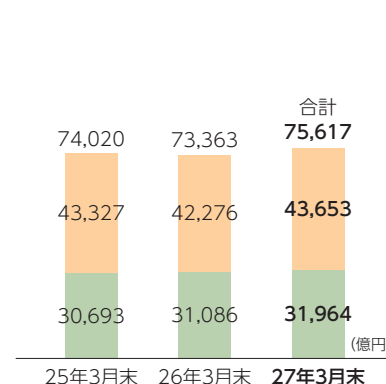


預金(含む譲渡性預金)
10兆6,513億円

個人預金、法人預金が順調に増加したことに加え、譲渡性預金が増加したため、前期末比4,793億円増加しました。

貸出金<2行合算>

■ 北陸銀行
■ 北海道銀行



貸出金
7兆5,617億円

事業性貸出や個人ローン、地方公共団体等向け貸出のすべてのセグメントで増加したため前期末比2,254億円増加しました。

損益状況

(単位:億円)

	27年3月期		26年3月期
		前期比	
経常収益	940	△ 37	977
コア業務粗利益	765	△ 5	770
資金利益	640	△ 22	663
役務取引等利益	105	+ 14	91
特定取引利益	2	△ 0	3
その他業務利益	16	+ 3	13
経費	504	△ 1	505
コア業務純益	260	△ 4	264
業務純益*	296	+ 17	278
与信費用	17	+ 60	△ 42
株式等損益	1	△ 0	1
経常利益	245	△ 59	304
当期純利益	146	△ 31	178
自己資本比率	10.61%	△ 1.79%	12.40%

※ 一般貸倒引当金繰入前

連結経常収益	942	△ 37	980
連結経常利益	245	△ 59	304
連結当期純利益	146	△ 31	178

コア業務粗利益は、貸出金利息の減少を投資信託・保険販売手数料の増加で一部カバーし、前期比5億円減少の765億円となりました。

コア業務純益は、経費の減少もあり前期比4億円減少の260億円となりました。

なお、市場金利の低下局面で国債等の売却を行い国債等債券損益を35億円計上しており、業務純益は前期比17億円増加の296億円となりました。

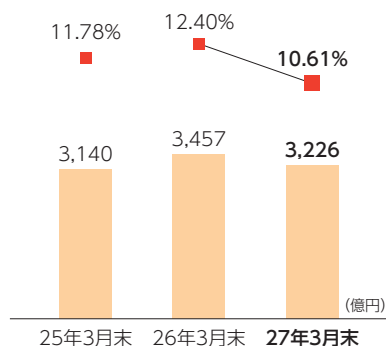
経常利益は、与信費用の増加等により前期比59億円減少の245億円となりました。

当期純利益は、前期比31億円減少の146億円となりました。

連結経常収益は前期比37億円減少の942億円、連結経常利益は前期比59億円減少の245億円、連結当期純利益は前期比31億円減少の146億円となりました。

自己資本比率

■ 自己資本
■ 自己資本比率



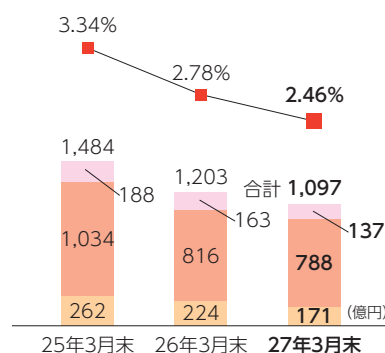
自己資本比率
10.61%

利益の積み上げを図った一方、劣後ローンの返済やリスクアセットの増加により、前期末比1.79ポイント低下しました。

※25年3月末はパーゼルIIベース、26年3月末以降はパーゼルIIIベースで算出しています。

金融再生法開示債権

■ 要管理債権
■ 危険債権
■ 破産更生債権及びこれらに準ずる債権
■ 開示債権比率



金融再生法開示債権
1,097億円

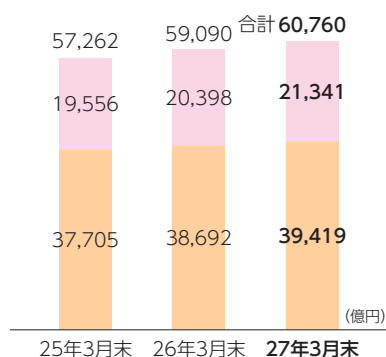
前期末比106億円減少しました。

開示債権比率
2.46%

前期末比0.32ポイント低下しました。

預金(含む譲渡性預金)

■ 法人等
■ 個人

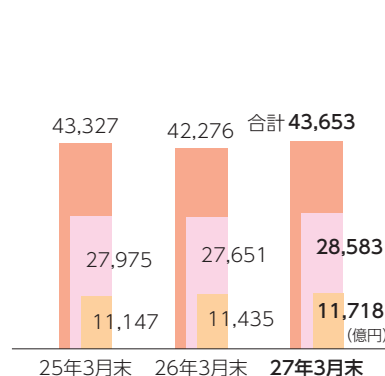


預金(含む譲渡性預金)
6兆760億円

個人預金、法人預金ともに順調に増加し、前期末比1,669億円増加しました。

貸出金

■ 中小企業等
■ 個人ローン



貸出金
4兆3,653億円

地方公共団体等向け貸出は減少しましたが、事業性貸出や個人ローンが増加したため、前期末比1,376億円増加しました。

損益状況

(単位:億円)

	27年3月期		26年3月期
		前期比	
経常収益	854	+ 52	802
コア業務粗利益	683	+ 30	652
資金利益	581	+ 26	554
役務取引等利益	93	+ 7	86
その他業務利益	8	△ 3	11
経費	431	△ 3	434
コア業務純益	251	+ 33	217
業務純益*	250	+ 32	218
与信費用	42	+ 14	28
株式等損益	33	+ 27	5
経常利益	226	+ 45	180
当期純利益	135	+ 38	96
自己資本比率	10.75%	△ 0.01%	10.76%
※ 一般貸倒引当金繰入前			
連結経常収益	871	+ 48	822
連結経常利益	234	+ 41	192
連結当期純利益	138	+ 34	104

コア業務粗利益は、貸出金利息が減少しましたが、有価証券利息配当金と投資信託・保険販売手数料の増加により、前期比30億円増加の683億円となりました。

コア業務純益は、経費の減少もあり、前期比33億円増加の251億円となりました。

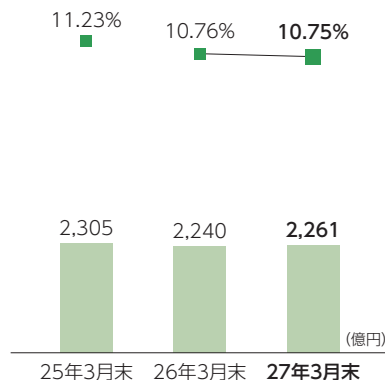
経常利益は、与信費用が増加しましたが、株式等損益の増加により、前期比45億円増加の226億円となりました。

当期純利益は、前期比38億円増加の135億円となりました。

連結経常収益は前期比48億円増加の871億円、連結経常利益は前期比41億円増加の234億円、連結当期純利益は前期比34億円増加の138億円となりました。

自己資本比率

■ 自己資本
■ 自己資本比率



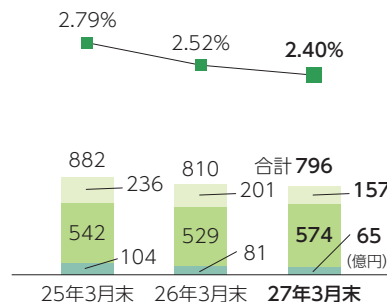
自己資本比率
10.75%

利益の積み上げを図った一方、劣後債の返済やリスクアセットの増加により、前期末比0.01ポイント低下しました。

※25年3月末はパーゼルⅡベース、26年3月末以降はパーゼルⅢベースで算出しています。

金融再生法開示債権

■ 要管理債権
■ 危険債権
■ 破産更生債権及びこれらに準ずる債権
■ 開示債権比率



金融再生法開示債権
796億円

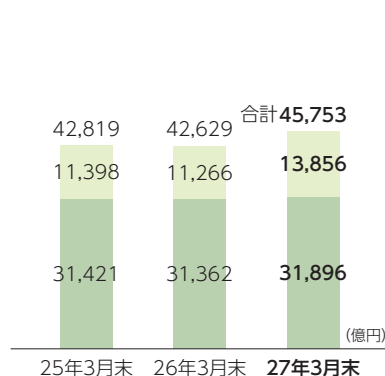
前期末比14億円減少しました。

開示債権比率
2.40%

前期末比0.12ポイント低下しました。

預金(含む譲渡性預金)

■ 法人等
■ 個人

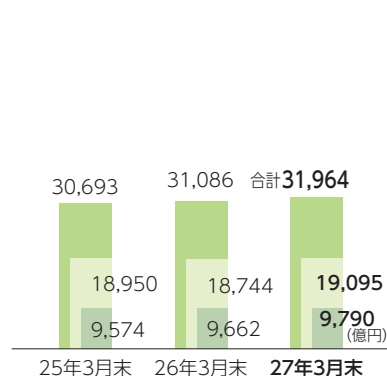


預金(含む譲渡性預金)
4兆5,753億円

個人預金、譲渡性預金を中心に増加し、前期末比3,123億円増加しました。

貸出金

■ 中小企業等
■ 個人ローン



貸出金
3兆1,964億円

事業性貸出や個人ローン、地方公共団体等向け貸出のすべてのセグメントで増加したため前期末比878億円増加しました。